

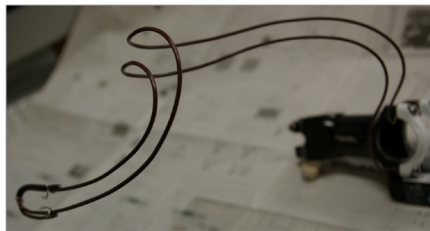
月刊 サンエスウォッチング Vol.11

Veno の誕生 Veno (ヴェノ) ブランドは、3つの製品開発から誕生しました。

BORDERLESS Carbon Handlebar ボーダレスカーボンハンドルバー

2014年、今までの形状にとらわれない、いろんな要素を融合した全く新しいカーボンハンドルを設計しました。
「楽なブレーキ操作・楽なポジション」「オンロード・オフロード」「通勤・ツーリング・グラベル・シクロクロス・それにヒルクライム」。
セッティングによってそれぞれの用途に応じたものとなりました。

デザイン制作の工程です



複雑な形状を設計するにあたって、まず針金で曲線を創っていきます。



工業用粘土をまともせて形状を作りブレーキレバーも装着して確認します。



アルミ削り出しでモックアップを作ります。
部位とサイズごとに繋げて実際に自転車で試乗し形状を煮詰めます。



完成したモデルは3サイズ。
発表してすぐにイタリアから譲って欲しいと
切望されるようなインパクトがありました。
DIXNACROSS ニーザーハンドルへと派生していきます。

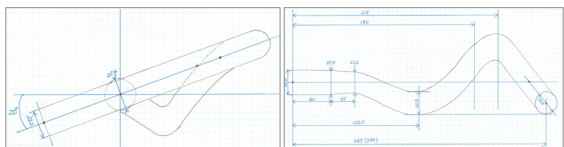


ドロップの上下を握り込むポジションは大きさにもよりますが掌から包み込むように小指薬指をしっかりとホールドできヒルクライムなどでの
厳しい登りの際に驚くほど下半身からペダルに
力が伝わります。
ドロップポジションが通常のブレーキブラケットと同じ位置関係になるので長時間の登りにも有効です。

当初は形状に違和感を覚える方も多かったものの、
最近では不思議なしっかり感があるとされています。

MetroPoint Handlebar メトロポイント ハンドルバー

街から街を気持ちよく巡るイメージで作りました。
こちらもグリップ位置とハンドルステムクランプ位置を同一線上に設計し、ハンドルを回転させても安定感がありコントロールしやすく、
ユニークな形状にシンプルな設計思想が秘められています。



最初のデッサンです。ポイントは同一線上であること。
20°設置を基本として設計しました。



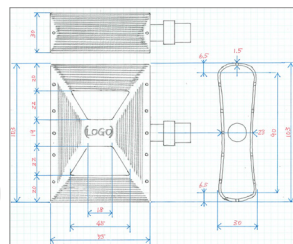
サイドには
「SHITAMACHI LIFE GEAR」
と入っています。



クランプ 25.4mm と 31.8mm で幅を変えています。
上下天返しに使用してもポイントは変化しません。

Trans Pedal トランスペダル

革靴の底を傷めず靴に負けない存在感を持ち、日常的でありながらも
既存のペダルを超越したような製品をテーマに作りました。
このペダル開発が一連の製品ブランド名を Veno としたきっかけとなりました。



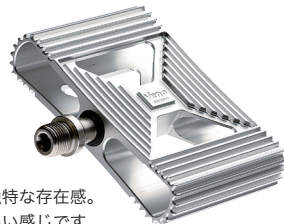
初期デザインはキャタピラがモチーフになっています。
ペダルの面から裏まで切れ目やつなぎ目の一切ない設計にしています。



モックアップを制作し実際に
感触を確かめます。確認はまず
素足で行うことが重要です。
同時に Veno のロゴデザイン
が生まれました。



Veno 装着のクロスバイクには
個性と落ち着きが同居しています。



意匠登録を取得する独特な存在感。
土踏まずでも快適でいい感じです。



名前の由来・・・今から 30 年近く前、スポーツ自転車製品が海外から次々に輸入され始め、弊社でも欧米の多くの有名ブランドを取り扱っていた時代、海外からの来訪者が所在地である TOKYO Ueno (上野) の U を V と “多分” 自分が発音しやすいように変えて Veno (ヴェノ) と呼んだところから名付けています。つまり Veno は上野をイメージしている訳です。

カテゴリーではなくモノにこだわる日常生活に寄り添ったブランドが Veno です。かつて自転車の街と言われた上野御徒町の中心に今だ位置する弊社が、慣例にとらわれない情趣に富んだ自転車生活の実現をその製品に込めています。みなさんも Veno の感触を楽しんでみてください。